

会館だより

NO.116号 令和6年3月1日
(公財)神奈川県青少年育成指導協会

スカウト会館 館長 吉原 滋彌

☆☆

“会館だより” 116号

☆☆

☆☆

新しい年を迎えて！



新しい年を迎え、実家に戻り楽しいお正月を過ごしていた元旦に能登半島でM7.6の大地震が起こり甚大な被害が発生しました。この能登半島地震では1か月経っても被害の全容がわからない状況の中、災害ボランティアなどの支援の手が徐々に現地入りしている状況です。又、地震発生の日には現地に支援物資を運搬しようとしていた海上保安庁の飛行機とJALの旅客機が滑走路で衝突するという、通常では考えられない事故も起こりましたが旅客機の乗客、乗務員が全員助かったことは世界からも「奇跡」と言われています。今回の地震では、能登空港も使用できなくなり、道路なども寸断され支援物資も中々届かず断水や停電も長引き、多くの被災者の方々は大変だと思えます。更に、朝市で有名な輪島では大規模火災が発生し、ほぼ全域が焼失したり、多くの木造家屋の1階が押しつぶされたり、土石流に飲み込まれたり、津波の被害などが伝えられてきました。今回の地震では海岸線の隆起も起こり4m以上隆起し、港として船の出入りができない所も発生し、今後の漁業の再開にも影を落としています。新潟では液状化現象が起こり多くの住宅に被害が出ました。この様な中、各県からもDMAT等の医療支援や人的支援、二次避難所や段ボールベッド等資材の提供など多くの援助活動が進められています。我々の拠点で活動しているボーイスカウト、ガールスカウト、子ども会も街頭募金等で支援するとともに現地への支援を進めているところもあると聞きました。我々の住んでいる神奈川でも100年前には関東大震災が発生し東京、神奈川をはじめ多くのエリアが被災した経験があります。同じ様な首都直下地震の発生や、南海トラフ地震、富士山の噴火等、我々の周りでもいつ起こるかわからない災害に、どうやって備え、対応していくか考えておかなければなりません。今回の津波や旅客機の被害を最小限に抑えられたのも日頃から行っていた訓練の成果だったと思います。私も2024年の展望に「コロナウィルスの5類移行後の人流増加やインバウンドの回復と共に歴史的円安の経済への影響」を述べさせて頂きましたが、災害が発生した場合は予測ができない状況となります。物流業界の2024年問題、ゼロゼロ融資の返済等課題は多くありますが、我々は常に前を向いて進んでいかなければなりません。そして将来を託す子ども達を育成していくことが我々の使命でもあります。今年の干支「龍」の様に子供たちが将来に向かってどんどん昇って行かれる為に、各団体の皆様には一層の御尽力を賜りたいと思います。今年が昨年よりも良い年になる様、ご支援を宜しくお願い致します。

令和6年 冬

公益財団法人 神奈川県青少年育成指導協会
理事長 上野 孝

賛助会費納入 ありがとうございます

(令和5年11月1日 ~ 令和6年2月29日)

☆法人会員 (1口 30,000円)

医療法人社団法人緑成会横浜総合病院

☆個人会員 (1口 12,000円)

藤和ライブタウン二俣川、レディース太極拳、追分由子、片岡喜久江、瀬戸由利子、プリランテ中沢、第二町内会、輝音、ひばり会、フラワーサークル・オリーブ、伊藤健三、菅原信浩、松井貞雄、加藤靖子



神奈川県少年少女育成指導協会前副理事長 武井重利氏を偲ぶ

ボーイスカウト活動にとってかけがいのない大切な方が令和5年7月7日の「七夕」の日にご逝去されました。武井さんは享年91(歳)でした。

神奈川県少年少女育成指導協会の評議員になられたのは1998年、2006年からは理事、そして、2016年からは副理事長として23年間にわたりスカウト会館を支えてこられました。

1999年のボーイスカウト神奈川連盟50周年記念事業では、武井さんは実行委員長を務められました。私は「緑を増やす活動」部会を担当するよう依頼され、ヤビツ峠の寺山地区にブナ、コナラなど1,500本を植樹し、「ボーイスカウト神奈川の森づくり」に取り組み、20年にわたる活動を継続し、緑を育てるとともにスカウトたちの技能章「森林愛護章」の取得に係わり大勢の仲間が出来たことと、継続することの大切さを、身を持って体験したことは大きな財産となりました。

スカウト会館にはよき指導者を育む研鑽の場所としての大切な役割があります。会館が主体となつての活動は何もやってきていなことに気づき、2006年2月19日、武井さんを代表世話人に、根岸進一さん(当協会現理事)が事務局でスカウティングの理念とスカウト教育について研究したい方を対象に「スカウト教育研究会」が立ち上がりました。武井さんにはこれまで蓄えてこられた大切な財産であるボーイスカウト教育の理念やその精神、訓練の手法等のほか、日本における青少年教育の歴史など20回にわたり講義していただきました。そして、その後の20回は参加者がそれぞれ話題を持ち寄り意見交換のできる和やかな研究会で、毎回15名前後の参加者がありました。いつも東京都連元理事長の吉田兼さんが出席され、有意義で蘊蓄のある話題とおみやげを提供してくれました。また、終わってからの夕食会も楽しいものでした。年に4回の割合で開催、10年間で40回開催され、武井さんを慕う人達との交流は心に残りました。

スカウト会館は2006年(平成18年)5月に「公益法人制度改革三法」が成立し、これまでの社団法人・財団法人は、この法の施行日から特例民法法人となり、5年以内に新公益財団法人になるか、一般財団法人になるか、解散するかのいずれかを選択しなければならぬという危機を迎えました。このときスカウト会館運営委員会を中心に、今まで「寄付行為」であった会館の規則を「定款」という新公益財団法人法に沿った規則に改める大変な作業があり、何回も運営委員会を重ね理事会に諮る「定款」を作成しました。このとき、公益法人化に強い関心を持たれ、いつも思慮深く会議を進行して下さったのは武井さんでした。「じっくりと人の意見を聞き、物事の心髄を見極める。」この姿勢は私にとって範となる大事な教訓でした。

たくさん思い出がありますが、2008年の夏のことです。スカウト会館の3階のロビーの雨漏りが年々激しくなり大分気にしていられました。二人で屋上に上がってその原因を調べてみるとシートが収縮して、その一端がはがれていることが分かりました。その後、綿密に調べ材料を発注し、40メートル四方を重ね張りしてくれました。スカウト会館の屋上には3階のベランダから梯子を使って丸い穴をくぐりぬけて上がるのですが、当時67歳の私は恐怖感を覚えました。76歳だった武井さんはそれを何回も上り下りしての作業でした。多くの人の願いがこめられて建設されたスカウト会館を大切にしようとする想いに本当に頭が下がりました。

スカウト教育に一生を捧げられた武井さんは、「幾千の盟友とスカウティングを共に活動できたのは幸せでした。心より感謝申し上げます。」という感謝の言葉と、「県下ボーイスカウト各団の指導者は、

今後も研鑽に励み、隊の成長と発展に励まれますよう心よりお祈り申し上げます。」という励ましの言葉を私たちに残され旅立たれました。

神奈川県少年少女育成指導協会 伊藤健三（第3代スカウト会館 館長）

ボーイスカウト 短 信

ボーイスカウト横浜地区創立 50 周年記念・スカウトフェスティバルを実施

2024(令和6)年2月11日(日)にボーイスカウト横浜協議会は、地区創立50周年を記念して神奈川県民ホール・大ホール(横浜市中区)を会場に記念式とスカウトフェスティバルを開催した。地区内のスカウト、指導者等の他神奈川県内のボーイスカウト、ガールスカウト、一般のこども、保護者等合計約1,100名以上が参加した。第1部式典は横浜地区50年のあゆみを映像で振り返った。カラーチーム隊、各隊隊旗の入場、開会のことばに続き山中竹春横浜市長がカラーガードの先導で横浜地区ネッカチーフを着用しステージに登壇。各隊隊旗を捧持したスカウトに囲まれご挨拶をされた。50周年シンボルマーク優秀賞の表彰、各部の代表スカウトによる「スカウトの決意」、参加スカウトのエール交歓で第1部を終了。

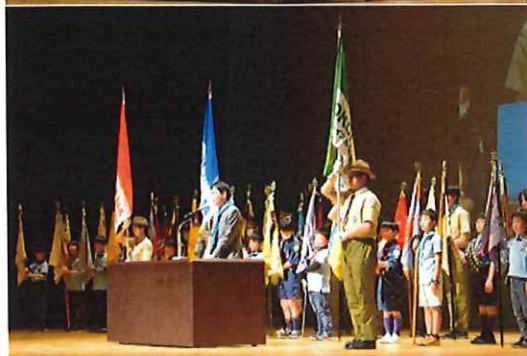
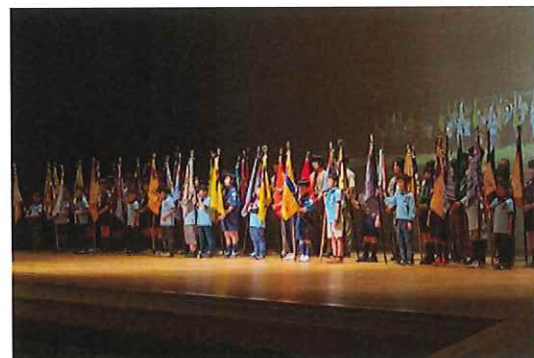
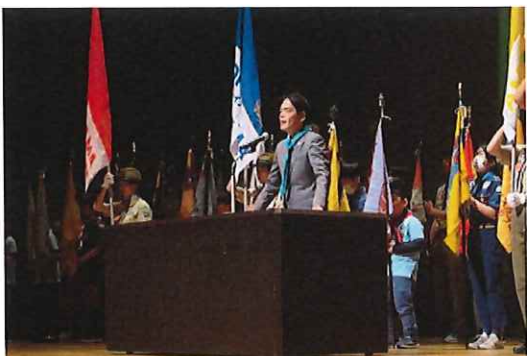
第2部はボーイスカウト運動の創始者(B-P 卿)生誕166年祭を行った。B-Pの生涯を映像で振り返り、スカウトのスタンツ(寸劇)、歌、朗読でその生涯とスカウト運動の世界的広がりを各行政区の代表スカウトが演じた。アトラクションは「音ぽっけ」(3人による音楽ユニット)による歌とおどりに合わせ会場の参加者も楽しんだ。「音ぽっけ」と一緒にカブスカウトがステージで「光の路」と100周年記念ソング「いま高き峰へ」を動作付きで披露した。

第3部記念講演は「地球温暖化と南極の現状」のテーマで第64次南極地域観測隊夏隊に同行取材した吉田 遥(テレビ朝日)の貴重な映像と体験がトーク形式で展開された。

第4部の閉会セレモニーを最後に閉会した。

☆ボーイスカウト横浜地区は、1973(昭和48)年4月1日に旧横浜地区より当時3地区に分封した1地区で現在まで50年にわたり単一地区で組織している。現在横浜市内はみなと地区(4地区が発展的統合)と横浜地区の2地区で構成している。

横浜地区創立50周年記念
スカウトフェスティバル実行委員長 根岸 進一
(公益財団法人 神奈川県少年少女育成指導協会 理事)



ガールスカウト 短 信

ガールスカウト活動報告会を実施

公益社団法人ガールスカウト神奈川県連盟では2月23日(金・祝)に今年度開催された事業や団活動の様子を広く県内に伝える「スカウト活動報告会」を開催しました。

今年度は①藤沢で活動するガールスカウト神奈川県第18団の1年間の活動②ガールスカウト世界連盟の施設であるインドの「サンガム」に1か月滞在したリーダーの経験、③全国のレンジャー(高校生年代)が一堂に会して開催されたレンジャー全国キャンプ④神奈川・千葉・東京・山梨のシニア(中学生)が集まり自分の体のことについて考えた南関東シニア部門事業⑤日本連盟が主催する次世代を担う少女と女性が自分の可能性を發揮できる社会環境を作り上げることを目指すイベント「国際ガールズメッセ」でロボットを作った体験⑥ガールスカウト世界連盟の意思決定の場である「第38回世界会議」に参加したユース年代のリーダー⑦日本連盟主催の半導体とエンジニアリングについて学ぶ3日間! Chip Camp in 広島に参加したスカウト⑧「ぼうさい探検隊マップコンクール」でデジタルマップ特別賞を受賞したガールスカウト神奈川県第53団⑨神奈川県のシニア・レンジャー・ユース年代の自主活動グループ「かながわ sisters」の活動についての報告を聞くことができました。みんな自分の活動に自信を持って得たことを発表し、聞いているみんなは他の人の活動に興味を持ち、それぞれが未来に向かって発展していく良い機会となりました。



能登半島地震 短 信

募金状況及び現地支援関連

本災害に対しボーイスカウト、ガールスカウト、子ども会とも街頭募金を行い、日本赤十字社や中央共同募金会、日本連盟等を通じて石川県連盟、富山県連盟、新潟県連盟へ寄付金を送っています。

〈ボーイスカウト日本連盟：8,521,485円(2月29日現在)〉

又ボーイスカウト石川県連盟は現地に復興支援現地本部を設置し、日本連盟と協働で現地支援を進めています。日本連盟より全国の指導者、スカウトに向けた案内もHPに掲載されています。



〈復興支援現地本部〉



〈鎌倉市から貸し出された移動トイレ〉

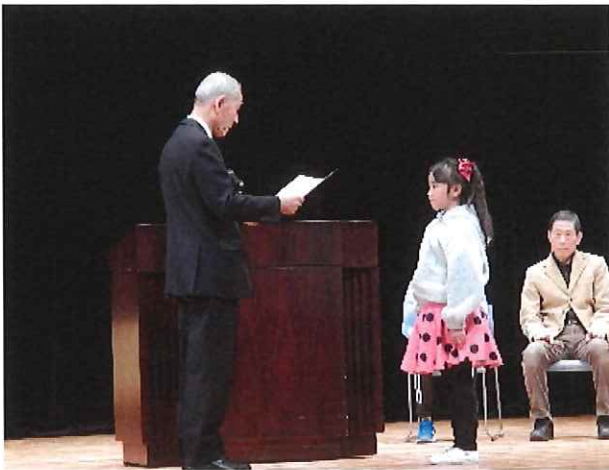


令和5年度子どもフェスティバルを終えて

1月28日子どもフェスティバル（子フェス）が、桜木町にある県立青少年センターで：年センター、共催県子ども会連絡協議会で、4年ぶりに入場制限もなく開催することができました。今年のテーマは～やってみたい！がきっと見つかる！！～のもと、子フェスの1階ホールでは、子ども会大会が行われ、優良子ども会の表彰式と活動発表として、川崎市の子どもの会の一輪車演技や横浜市からダンスのチーム演出をいただき、また運営スタッフであるやジュニアリーダーとユースリーダーの活動発表など行いました。運営を行うジュニア、ユースは、10月から県青少年センターの指導者育成課の先生方から指導をいただきながら、当日をむかえました。

その他には、子ども会ブースは、川崎市子連はポップコーン販売と県子連・横浜市子連の有志により、小さな子どもたちにも楽しく遊んでもらえるようミニゲームを出展しました。BS、GSをはじめ。センターに関係する青少年団体からも多数出展いただき、1600名以上の参加者で、館内は、一日中、子どもたちの笑顔や歓声がひびきわたりました。事故もなく無事終了することができ、参加された皆様のご協力に感謝申し上げます。（H）

<優良子ども会表彰式>



<一輪車演技>



<バルーンゲート>



<活動ブース>



令和5年度注連縄作り

例年開催されている注連縄作りを12月23日（土）に実施いたしました。参加者22名と盛況に開催され、皆さん自作の注連縄で新年を迎えました。



スカウト会館体験イベント「今・昔遊び」

本年度開催したスカウト会館体験イベント第2弾として2月12日（月・振替休日）に実施し、事前予約を頂いた午前（50名）、午後（26名）の子供たちが昔遊び（竹馬、竹ぼっくり、コマ回し、けん玉、オハジキ、お手玉）、今遊び（ドローン操作）、割りばし鉄砲作り、ストロートンボ作り、ブーメラン作りなどの工作を体験しました。

<竹馬遊び、けん玉遊び>



<ブーメラン作り、ドローン操作>

